

令和元年度第1回富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(議事概要)

日 時：令和元年11月28日(木)13:30~15:00

場 所：富山県民会館302号室

説明事項：(1)令和元年度富山県中小企業振興施策(実施状況)について
(2)国の中小企業振興施策等について
(中部経済産業局、富山労働局)

委員からの主な意見

- ・県の施策はたくさんあるが、活用が十分なものもあるが、そうでないものもある。施策ごとに支援機関のカウンターパートを決めてフォローしていくことで浸透していくのではないか。
- ・時間外労働はだいぶ減っているように感じる。施策に関しては、各中小企業者が知らないものが多いので、伝え方は工夫すべき。また、申請のしやすさについても考えていくべき。
- ・子育てママの世代の方と話すと、社会から取り残されている感があって、いろいろ不安になるということをたまに耳にしており、そのような中で女性未就業者活躍促進事業」には期待を寄せている。潜在的な女性求職者の開拓、子育てママ向けの仕事の切り出し、マッチング等のためにも広く周知してほしい。そのなかで、「首都圏若者向け移住創業等支援事業」の募集成果はすばらしい。
- ・生産性を上げるためにはAIやIoTの活用等が適しているが、多様化が進み、これらに経営指導員が対応できなくなってしまっている。経営指導の知識とは別にIoTなどデジタル化等についても窓口になって、何でも答えられるような指導員を育成していかなければならない。このため、指導員育成のための施策を作してほしい。
- ・国や県と施策を企業に周知していくことも金融機関の役割だと考えているが、自分たちの持っている制度すらうまく周知できていないのが現状。このため、民間金融機関の皆さんと地域との連携を一生懸命やろうということに取り組んでいる。

- ・中小企業や金融機関からは、施策を利用する際の申請書類が多くなっている、また、その処理を迅速に行ってほしいという声を聞いている。そういった声をきちんと受け止めていくことが中小企業、小規模事業者さんからの信頼につながるのではないか。
- ・地域の将来を担う人材を育成して地元の企業に就職してもらう仕組みの機能強化を組織として図っていくため、新しいコンソーシアムをつくって、定型的な学びを実現する仕組みを推進してはどうか。
- ・高校から直接就職する生徒も多いが、選んだ企業の理由を聞くと「収入が良い」「大企業」「働き方改革」といったものが多く、高校生もそういうことを気にするような時代になっている。また、子供が東京の大学に行ってもそのまま東京で就職することを良しとする価値観が残っている。このため、保護者への何らかの啓蒙があれば良い。
- ・小さいお店であっても、富山らしい特色ある取組みを行えば、富山の消費者はそこに行って、そこで買い物しようということになると思う。施策の申請に関しては、大企業にはそのリテラシーがあるが、小規模企業にはないので、リテラシーを身につけてもらうような支援、指導を商工会議所等でも行ったらよいのではないか。
- ・さまざまな制度、施策、補助金等があるが、やはりどのように中小企業にPRしていくかが重要。県内の信用金庫と公庫など関係機関を含めた生産性向上に関する意見交換会を実施しており、中小企業に日常的、継続的に寄り添っている信用金庫の職員の方に、制度や補助金についてご理解をいただいで、日々お邪魔しているお客様に対してアドバイスや情報提供をしっかりとやっていたことで、情報が中小企業に伝わっていくのではないかとということで、それを実証している。